

## 平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

### 1. 学校概要

学校名 大牟田市立駛馬北小学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  中高一貫教育  高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他（ ）

所在地 〒 836-0084  
福岡県大牟田市馬場町17番地

E-mail hayamekita-ea@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website \_\_\_\_\_

児童生徒数 男子 68名 女子 62名 合計 130名  
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ 福祉 ）

### 3. 活動内容

#### 1 本校のESDの特徴

本校校区は東側に世界文化遺産「宮原坑」「三池炭鉱専用鉄道敷」があり、鶯替え祭りで知られる駛馬天満宮がある。また、南側には諏訪川が流れている。このように、歴史や文化、自然環境を体験的に学習することができる、学習環境に恵まれた地域である。本校ではこれらの学習環境を生かし、環境や文化、石炭産業に関する歴史を学習対象としたESDを展開している。

特に、平成25年度から総合的な学習の時間の一環として取り組み始めた「子どもボランティアガイド」<sup>1)</sup>では、活動を通して子どもの郷土愛や社会貢献の自覚、自尊感情、コミュニケーション能力が高まるなど、プログラムとして大きな成果をあげている。



##### 1) 子どもボランティアガイド

宮原坑を中心とする世界文化遺産について調べたことを基にガイド原稿をつくり、実際に見学に来られた方にガイドするプログラム。

#### 2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

本校はユネスコスクールとして「かかわり」を大切にしている。これは、ESDのテーマである「つながり」に繋がるものである。

主に総合的な学習の時間と生活科において学習を展開する。低学年は身近な校区とそこにかかわる人を現在の視点で学習する。中学年は、地域や大牟田市とそこにかかわる人を現在から過去を考えながら学習する。高学年は、大牟田市や他地域とそこにかかわる人を、過去から現在、そして未来の視点を考えながら学習する。このように、学習対象を空間的に広げ、見方や考え方を時間的に広げ、それに伴ってかかわる人々を広げながら学習していく。

例えば、1で挙げた子どもボランティアガイドは、三つの対象が系統的に高まった状態での活動である。宮原坑など大牟田の世界文化遺産と、同じ構成遺産である三菱長崎造船所や八幡製鉄所を比較検討し、宮原坑の価値理解を深めている（空間的な広がり）。また、石炭産業にかかわった人々の思いや願いを知り、石炭の歴史や文化を継承する一員として自分にできることを考え、ガイドに取り組んでいる（時間的な広がり）。さらに、三池炭鉱で働いていた方や歴史を伝える活動に取り組んでいらっしゃる方と意見交換するなど、人とのかかわりを広げている（人の広がり）。

活動の広がりとして、子どもボランティアガイドについて、今後は熊本県荒尾市や佐賀県佐賀市の小学校と、活動の紹介やガイドについての意見交換を計画している。

#### 3 特徴的な活動事例の紹介

- (1) 6年 単元名 「提案しよう！宮原坑保存計画！」
- (2) ねらい

「石炭産業の様子やそれに伴う当時の雰囲気や後世に伝える」という世界

遺産の意義を理解し、未来を見据えて、当時の様子や雰囲気を残しつつ現在の課題に対応する方法を考え、石炭産業の歴史を未来に伝えていくための一員としての態度を養う。

### (3) 学習展開

#### a 導入

世界遺産登録から一年が過ぎ、少しずつ宮原坑の見学者が減っている事実から、「見学者が楽しめる施設を考えて大牟田市に提案しよう」という課題をつくった。

#### b 展開

まず、見学に来られた方にどんな施設があったらいいかインタビューしたり、他地域の世界遺産の事例を調べたりした。

次に、調べたことを基に、宮原坑の近くに作る施設のプランを作った。そして、そのプランを石炭産業科学館の職員（GT）に見てもらい、アドバイスをもらった（写真1）。GTからは「見学者が来ればいいわけではない。何のために見学に来られているか考えるべきだ」と指摘していただいた。そこで、子どもたちはプランを見直し、「宮原坑の魅力伝える」要素が欠けていることに気付いた。

そこで、「宮原坑の魅力も伝えていくプランにする」という新たな課題を設定し、自分たちが作ったプランを修正した。

例えば、足湯のプランを作っていたグループのものは、修正前は観光客の方々が向き合って座る作りになっていたが、修正後は、

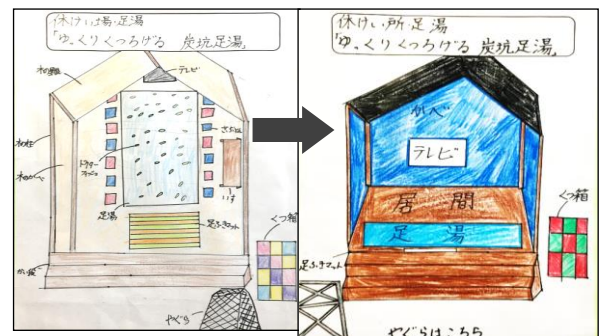
宮原坑を眺めて座るアイデアになっている（図2）。このように、「観光客を呼びたい」という切実な願いと、宮原坑の歴史や雰囲気を伝えることが大事だという考え方を取り入れた、子どもなりの折衷案が作られた。

#### c 終末

各グループが作成した施設案は、大牟田市世界遺産文化財室と観光おもてなし課から講師を招聘し、施設プランを提案後、アドバイスをいただいた。又、5年生も6年生の提案を聞き意見交換をした。



（写真1）自分たちが作ったプランの提案



（図2）修正前と修正後の施設プラン

## 4 1～5年生の実践

### 1年(地域の文化) 「むかしあそびをたのしもう」

- 昔遊びには、体全体を使って遊ぶ楽しさやおもしろさがあることを感じ取る。  
(生活科 10 時間)

我が国や郷土の伝統として、昔から伝わる遊びがあることを知り、GT から遊び方を学ぶことで興味を持って遊ぶことができた。

## 2年(地域の文化)「つたえ合おう町のすてき」

- 地域の様々な場所や人に関心をもち、繰り返しかかわる中で、地域をより身近に感じる。(生活科10時間)  
地域のこと、ものを調べたり、人へのインタビュー活動で調べたりすることで町の「すてき」についてまとめたことを交流し、駿馬北校区のよさに改めて気付いた。

## 3年(地域の文化)「校区じまんカルタを作ろう」

- 郷土カルタに込められたふるさとを愛する思いを大切にし、自分も大牟田市民の一員としてカルタを大切にしていこうとする。(総合的な学習の時間15時間)

自分たちの校区の自慢できる「ひと」「もの」「こと」を題材にした。三池カルタや歴史資料館のことや郷土カルタへの思いを知るとともに、カルタを通して校区のよさを広めて欲しいというGTの思いや願いを聞き、子どもの課題意欲や学習意欲を高めることができた。そして、意欲的にカルタ作りに取り組み、地域への愛着をもつことができた。

## 4年(環境保全)「諏訪川カッパ伝説を広めよう」

- 諏訪川的环境や自然を大切にしていこうという思いや、水の事故にあわないようにという願いをカッパ伝説から汲み取り、伝説を広めようとする。(総合的な学習の時間22時間)

他地域のカッパ伝説と諏訪川のカッパ伝説を調べ、カッパ伝説に込められた昔の人の思いや願いを比較し、諏訪川のカッパ伝説に込められた思いや願いに気付くことができた。

## 5年(世界遺産学習)「炭鉱のまちを伝えたい」

- 宮原坑は日本の産業が発展する原動力になったことを多くの人に伝えることは、郷土の文化遺産の価値や当時の人々の苦労や誇りを知ってほしいという市民の願いがあることを理解する。(総合的な学習の時間17時間)  
宮原坑にかかわる人々の思いを伝えるために、6年生や地域の人と関わり「宮原坑」を紹介するボランティアガイドの内容や仕方を繰り返し修正しながらガイド活動に取り組んだ。

### (2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他( )